ヨーロッパ狩猟システムの思想を終えて

上田剛平（兵庫県立

テーマセッション

ヨーロッパ狩猟システムの思想

1999年度の狩猟学

2005年の野生动物保護学会第

大会からテーマセッションとして

博士は休暇を利用しての来日と学会

の日程が幸運にも重なり、フランス

の狩猟の実態を紹介いただけるこ

国際的な交流が実現するのも、狩猟

学だからこそだろう。

本橋ではテーマセッションの趣旨

と共に、その模様を简单に紹介する。

参加しただけなかった方にもこの

セッションの日が少しでも伝わ

るよう努めてきた。これを実現するためには、

我々と一緒に会いたいとの願い

が実現する機会にもなった。また

1999年の鳥類保護法改正により

社会の環境についても学ぶ必要があ

る。そして、それは我々が成立した背

景のため、地域、地球の要する

な。しかし、それは、比較的条件が似

ている北海道におけるエゾワシ管理

では、アメリカ、イギリスのシ

の適用が難しいことが次第に明らか

に、本来の申請を進めることが可能

で、日本独自の管理制度についても学

の外での地域の狩猟管理制

度を構築していくことが必要とな

り、ヨーロッパ大陸の国々の狩猟制

度、生態的、地理的、社会的条件が

を満たすことが必須である。
ヨーロッパでよく見られるトロフィーの数々（野島利彰氏撮影）
図2 ポーランドにおける狩猟による収入（2005年）